

学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属中学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体①

【研究テーマ】

学ぶ意義を考え、学びに向かう力を育む授業改善
～生徒と共につくる新しい学び～

①「問い」の工夫のある授業

・学習者が「問い」を持ち、主体的に解決できるようにするための手立てと、解決の過程の中から、深い学びを実現するための手立てを単元や授業展開の中で明確にした授業実践。

②授業実践による交流

＜一人一実践による交流＞

・校内研修の中で、これまで各教科で取り組んできた内容を交流し、より効果的なICTの活用等を練り合う。

＜授業研究及び公開研による交流＞

・「問い」の工夫は有効であったかを検証
・ICTの活用場面は有効であったかを検証

③「生徒と共に創る授業」の推進

・生徒会学習委員会提案の「学びを紡ぐ5つの約束」の取組から、学習者と授業者で共に授業を創っていく。
・ICTサポーターズ(生徒)を組織し、端末をはじめとしたICT機器をよりスムーズに活用できるようにしていく。



学びを紡ぐ5つの約束

私たち中学生一人一人は、授業の主役であり、志をもち続けたいと思っています。互いに学習する権利を守り、今の学びを将来につなげるために「学びを紡ぐ5つの約束」を作りました。これは私たちに考動を促す権利です。「質の高い授業」をつくり、高みを目指すという決意でもあります。「自主自律の精神の下、高い学力、深い愛の心、堪え忍ぶ力を兼ね備えた気品ある中学生の育成」という学校教育目標を私たちの方で実現しましょう。

1. 学習者としての心構え、あたりまえをつくらう

- ・必要な道具を準備して、授業に臨みます。(忘れ物)
- ・2分前着席・1分前始末で心を整え、授業に臨みます。
- ・授業前後あいだで意欲を示します。
- ・姿勢を正します。
- ・提出物は期日を守り、提出します。

2. 環境を整え、授業の雰囲気は自分たちの手でつくらう

- ・「静と動」を意識して、活動にメリハリをつけます。
- ・身の回りものを整理して集中できる環境をつくれます。
- ・他者の意見を受け取る姿勢を大事にします。
- ・「乱配り」と「心配り」を大事にします。
- ・活発な意見交流につながる工夫を考えます。

3. 「問い」を大事にする学ぶ集団にならう

- ・大きく、読む、伝える、考える場面を大事にします。
- ・教え合い高めあう協働を意識します。
- ・「見通し」を持ち活動する自主性を大事にします。
- ・目的・ねらいを達成したときの姿をイメージします。

4. ICT をよりよく使いこなす人にならう

- ・「附中×GIGA」を支える活用方法を探ります。
- ・学習者としての正しい使い方を提案し、手をかけます。
- ・自分たちの考えを共有する選択機のひとつにします。

5. 次につなげるためにふりかえらう

- ・自分たちのできていないところ、できるところ(強み)を把握します。
- ・課題を改善・解決しようします。
- ・振り返り得た経験や良かったことを新しい「問い」につなげようします。

附中生の目指す「質の高い」を感じる授業とは…

学習者が「問い」に向き合い、積極的に取り組んでいる授業
学習者と授業者が共につくる授業

活躍している附中生の姿をイメージしながら考動しましょう。

学びを紡ぐ5つの約束



一人一実践の取組

研究資料 2022.6 実施

問い×ICT 実践事例

教科書 2年

織田信長と豊臣秀吉による統一事業
(クワッドの活用と質問機軸の活用による発見学習の活性化)

名前 小野 智輝

【活動の目標】
織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係について、異文化活動やグループでの話し合い・活動・発表をICTを効果的に活用することを通して、近世社会の基礎がつけられたことを理解することができる。

【問い】
・戦乱の世を終わせたのは、信長と秀吉のどちらの政策だろうか。(問いの工夫1)
・調べたことをグループで共有し、課題について話し合い、発表する。(問いの工夫2)

今回ICTを活用した場面

A1: 教員による教材の提示
生徒が調査した学習内容の定着を図るため、パワーポイント資料を大型テレビに映し、説明する。

従来の活動
教員が板書する。

C1: 発表・話し合い
話し合った結果をホワイトボードにまとめた後、その写真を撮影しクワッドにアップロードさせる。発表時に、大型テレビに映し出す。

自分のノートに記述させたのち、教員の意見を発表させる。

【資料】 クラスルームでのコメント

【ICT機器を活用する良さ】
クワッドにアップロードすることでデータとして保存でき、後で見直すことができる。
① クワッド全員に意見を発信させることで、単元上の一歩の発見に慣らな。

【改善すべき点と原因および取組】
Chromebookとノートとの併用について、学習履歴としてのchromebookの活用。

研究資料 2022.5 実施

問い×ICT 実践事例

教科書 3年

式の計算の利用「数の法則を発見しよう。」

名前 澤場 裕文

【活動の目標】
乗法公式 $a^2 - b^2 = (a+b)(a-b)$ に着目して法則を一般化する活動を通して、数の性質に関する一般化された法則が乗法公式の見方を表わしているのだと、実感することができる。

【問い】
・数の並びからどんな性質が見えてくるかをみつける活動 (問いの工夫1)
・「連続する」の部分をとりのぞくと法則はどう変わりますか。(問いの工夫2)

C1: 発表・話し合い
この式から予想される「数の性質」を「～は、～になる」の形で表す活動をcLassroomで意見を集約する。

【おおい】
・手帳に見易いのができるのは良い。
・筆名をして発表を苦手とする学習者でも何かしら自分の考えを入力しようとする必要が生まれた。

【改善すべき点と原因および取組】
・収まり切らぬ内容の意見を求める場合には、複数情報として強制であり、他者の意見に流されるため適さない。考えの広がりを持たせてもらう。収束を求めない多様な意見を求めるには効果的である。

C2: 協働での意見整理
グループ活動で使ったホワイトボードを撮影して、クワッドにおける。

【おおい】
・意見共有をする。
・他者の意見を参考に自分の意見をもとめる。

【ICT機器を活用する良さ】
・見たい情報をアクセスでき、手元で活用できる。
・学びの記録として保存でき学び直しに活用できる。

【改善すべき点と原因および取組】
・役割を決め活動を進めたり、グループ活動のルールを確認したりすることが固定。教科を超えて使えるスキルであり方法を授業間で共有すべきである。